

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年11月17日（日）

活動隊員：金谷雅代

1. 活動期間

2024年11月12日（火）～14日（木）

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

仮設住宅訪問：高屋町第1団地、折戸町第1団地

在宅者訪問：長橋町

集会所：宝立町第1団地集会所（珠洲市宝立町鶉飼丑83）

3. 珠洲市の被害状況

令和6年能登半島地震による被害状況（11月12日（火）14時現在 石川県庁情報 第170報）

人的被害 死者：140人 うち災害関連死：40人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,745棟、半壊：2,071棟、一部損壊：1,751棟 非住家被害：6,080棟

避難所 開設7箇所 避難者数44人（下線部は前報からの修正）

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況（11月12日（火）14時現在 石川県庁情報 第30報）

人的被害 死者：3人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：9棟 半壊：58棟 一部損壊：2棟

床上浸水：13棟 床下浸水：158棟 非住家被害：103棟（下線部は前報からの修正）

避難所開設状況 3箇所 避難者数29人

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 11月12日：26人、14日：26人

【避難所運営と生活状況】

避難所には石川県からの応援職員が2人おり、避難所運営を補助していた。断水状態は持続している。戸外の仮設トイレは住民が自主的に掃除されており、汚れは目立たなかった。しかし、1基が時折あふれることがあるとのことで、タオルでガードしている状態である。体育館入口も汚れは目立たなかった。体育館内の床は埃がやや多かった。朝ストーブが稼働するようになったが、9時頃ストーブを消しても、日中は冷え込むことがなかった。

12日、14日に外部支援者からの炊き出しがあり、避難者も在宅者も多く集って食事していた。キッチンカーの訪問が定期的にあるという話は頓挫したが、食材の支援が決定し、14日の昼に早速食材が届けられ、在宅者も食材を選んでいった。

冬物の衣類など多くの物資が届いたり、外部支援者の出入りが多くあり、にぎわっていた。

5. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所内での活動>

スタッフミーティングの後、トイレ掃除、床掃除等の環境整備を石川県の職員と共に実施した。体育館内のモップがけには避難者の協力もあり、分担して進めることができた。また、支援物資として届いた冬用の衣類を仕分けし、衣装ケース等に並べなおして取り出しやすくした。

在室している避難者に声をかけ、健康状況の確認、血圧測定を実施した。

体育館内、ランチルームに設置している空気清浄機(Air Dog)のメンテナンス手順資料をピースウィンズジャパン担当者から受け取り、避難所内に常駐する消防職員に預け、定期的なメンテナンスを依頼した。

14日に、お茶会を協働で実施しているピースボートの担当者の紹介で、北海道からの支援団体によるマッサージとカフェが開催された。「避難所で支援している支援者にも自分をいたわってもらいたい」という支援団体の意向があり、避難者だけでなく支援者もマッサージを受けていた。

<応急仮設住宅訪問>

高屋町第1団地の独居の高齢者宅を訪ねた。他にも訪問があるようで、昨日血圧測定をしたという理由で測定は希望されなかった。物資も十分にあり、生活できていると明るく話された。

折戸町第1団地の住人に、前日の診療所の様子や生活状況について尋ねた。診療所を受診した人が一定数いたとのことだった。「総合病院まで行かなくても、内服薬を処方してもらえることが分かって安心した。」と話され、これから冬に向かい、交通状況が悪い中での受診の懸念が払拭された様子だった。折戸町第1団地は坂上にあり、仮設住宅の一角に数台のシニアカーが並んで置かれていた。住人お二人が、「これがないと、畑や家に行けない」と言いながら、出かけていった。また、シニアカーにはカバーが掛けられており、使用の際は、その都度カバーの掛け外しが必要とのこと、「ここに屋根でもつけてもらえんかな」とつぶやいていた。

<在宅避難者宅の訪問>

娘さんと同居中の90代の高齢者宅を訪問した。知人と同じ日にデイサービスを利用できることになり、多少張り合いが出てきたようだと言った娘さんが話された。ご本人は同じ内容を繰り返して話すことはあるが、しっかりと話され、認知症症状は前回からの変化はないように感じられた。収縮期血圧が140代であったが、主治医も把握した上で様子観察となっているとのことだった。

<エリア会議・支援者会議参加>

1) エリア会議

開催日時：11月13日(水)9時~11時20分

開催場所：珠洲ささえ愛センター

開催内容：3つのエリア別に各支援団体とエリア担当保健師、ソーシャルワーカー、精神保健福祉士が参加して個別の課題、コミュニティの課題について情報共有しながら検討している。

担当する地区の住民の様子やコミュニティ支援を再開していることを報告した。

2) 支援者会議

開催日時：11月13日（水）15時～16時

開催場所：珠洲市健康増進センター

開催内容：健康増進センター長をはじめ、各支援団体の長が参集し、支援に関する課題と対応策について検討していた。400戸の一斉訪問を12月上旬までに済ませることが共有された。また、仮設住宅の鍵管理の問題、雪への備え、要介護者の入浴問題について意見交換がなされた。

<地域コミュニティ支援>

1) 大谷地区お茶会

日時：11月12日（火）13時～15時

場所：大谷小中学校ランチルーム

参加人数：12人

開催内容

ピースポート担当者が、写真立て作りを提供した。参加者は思い思いにフェルトを飾り付けし、どの写真を飾ろうかと談笑していた。10分程で仕上がり、嬉しそうに眺めながら、他者と作ったものを見せ合っていた。

健康増進センター担当者により、健康講話と100歳体操が行われた。地震後に体重増加したのは女性にやや多く、豪雨後に体重増加したのは男性にやや多かったと言う話があり、参加者は熱心に聞き入っていた。体操はランチルームの丸椅子で実施したため、転倒に注意しながらの実施となったが、どなたもバランス良く足があがり、無事に終了した。

揚げない大学芋を提供し、食べながら談笑していただいた。

2) 宝立地区お茶会「集いの会」

日時：11月13日（水）13時～14時45分

場所：宝立町第1団地集会所

参加人数：14人

開催内容

写真立てに、好みの装飾を施して、自分だけの写真立てを作成していただいた。その後、座ってできる体操を実施した。レンジ加熱したさつまいもに蜂蜜シロップと胡麻をかけて大学芋風に仕上げてください、食べながら談笑した。

参加者の多くが歩数計を持参しており、データを専用機器に取り取り、体組成計での計測を行っていた。プリントアウトされた結果を確認しあいながら会話している場面もあり、住民の健康管理意識の高さがうかがえた。

6. 支援活動を通しての所感と課題

朝夕の冷え込みがあるものの、日中は穏やかな天候が続いているためか、自宅や畑、散歩に出かけるなどして過ごされる方が多く、体調面で気になる人は見受けられなかった。

写真立て作りでは、それぞれに楽しみながら装飾しており、何かに没頭できる時間も必要で、参加者の表情が緩んでいるのが印象的だった。ものづくりを通して、話をしながら一緒に作業することで普段の健康管理場面とは異なる参加者の思いを聴くことにもつなげていきたい。ただ、ものづくりは得手不

得手もあり、全員に一律に勤めることは難しい。お茶会への参加が無理なくできるように、声をかけていく必要がある。

外部支援団体のマッサージでは、最初は「私は受けなくても大丈夫」と言っていた人も、支援者と話しながら施術を受け、お茶をいただきながら和やかに談笑されていた。支援者が帰る際には、見送る様子も見られ、半ば閉ざされていた心が開かれたようだった。一人一人にじっくりと時間をかけて行うタッチケアの有用性を改めて感じた。

7. 参考写真



写真立て作り



体操の様子



写真立て作り



外部支援者提供のマッサージ

* 写真撮影と掲載の許可を得ています